想創奏

そうそうそう

SOUSOUSOU

利用者とスタッフの
想いを創って奏でる機関誌

2024年6月号
vol.59

発行人　荒川輝男
編集人　松本智幸
デザイン　北橋惇



welfare, well-being!

最新活動情報

就労旅行、藤原荘プレゼン、鴫野エリア活性化イベント…法人の様々な『想い』ある活動をご紹介

読み物

ミャンマー情勢、そうそうの杜の歴史、エッセイ、インタビュー、福祉必見の書籍、利用者の声が『創る』読み物

エンタメ企画

おいもの国のアリス漫画、そうそうの杜グルメ&アート、そうそうの杜で『奏で』るエンタメ企画



想創奏（そうそうそう）

NO.59

CONTENTS

—— 法人の活動

・季節の挨拶に代えて…荒川輝男
・能登震災募金のお知らせ
・就労旅行…国本英浩、板見善子
・藤原荘と活用計画…研修Dグループ
・ミャンマーのこれまでと現在について…北橋惇
・期待の新入スタッフ紹介
・そうそうの杜ニュース…北橋惇

—— 鴫野エリア

・近隣の方へのインタビュー…真頼正施
・ボッチャモルック大会…松本智幸
・フリーマーケット…駒澤美羽
・こいのぼり街道…北橋惇
・鴫野の魅力再発見…中島秀樹

—— コラム・読み物

・これまで、これからのそうそうの杜…小澤、畑中、折登
・利用者へのインタビュー（Kawasemiで働く方達）…山口佳純
・利用者の声…松下美咲
・そうそうの杜エッセイ集…関宏之、和田数子
・福祉に携わる者なら…関宏之

—— エンタメ

そうそうの杜自慢のグルメ…駒澤美羽
そうそうの杜アーティスト…駒澤美羽
連載漫画『おいもの国のアリス』…北橋惇

—— お知らせ

・本の出版、配信者募集…北橋惇
・そうそうの杜のお知らせ、メディアリスト
・寄付のお礼、事業所一覧

新しい季節の挨拶に代えて



理事長　荒川輝男

梅の実が色づく頃となりました。日頃より、そうそうの杜の利用者とスタッフに、法人の活動を支えるべく尽力してもらっていること、そして法人の活動に賛同してくださっている皆様に多大なるご支援を賜っていること、心より感謝申し上げます。

まず、嬉しいご報告をさせていただきます。この度、そうそうの杜はミャンマーからの若者7名を正社員として雇用することとなりました。彼らは異なる文化背景を持ちながらも、慣れない日本での新しい生活の中、若々しい意欲に満ち、ミャンマーにはない障害者福祉という、新しい知識を身に着けるため努力しています。彼らを支えるとともに、法人の意志を共に継いでいく者として、一緒に働くことを心から楽しみにしています。彼らの持つ多様な視点が、そうそうの杜の活動に新たな風をもたらしてくれることを大いに期待しています。

しかしながら、彼らから伝え聞くミャンマーの現状には心を痛めずにはいられません。軍事政権によって多くの人々が自由を奪われ、命の危険に晒されています。このような状況に対して、我々は国際社会の一員として、何ができるのかを真剣に考える必要があるときにきていると感じます。いつしかミャンマーに平和が戻り、将来的には日本の社会福祉を彼らがミャンマーに持ち帰ることで、ミャンマーの復興に貢献したいと試行錯誤している真っ最中です。

同時に、日本国内に目を向けると、政治の腐敗がますます深刻化している現状があり、国民の信頼を失うような出来事が後を絶ちません。若者は世の中に明るい期待が持てないかも知れませんが、新しい世代を支えていくには、教育や福祉の充実が不可欠であり、その基盤を支えるのも社会福祉法人の役割のひとつだと強く感じています。

また、本年度も地域の皆様との交流や鴫野エリアの町おこしのために、鴫野エリア活性化プロジェクトを精力的に活動しており、多くのイベントを行っています。詳しくは今号の記事をお読みいただけたらと思います。

そうそうの杜が掲げる理念、「その人がその人らしく生きる社会の実現」を目指し、利用者、スタッフ、地域社会の皆様と共に、今後も全力で取り組んでまいりますので、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。





がんばろう

能登

NOTO
ISHIKAWA

震災義援金

総募金額　439,052　**円**

今般の能登半島地震につきまして皆さんに募金を募りましたところ、ご協力をいただき上記金額を珠洲市能登半島地震災害義援金に振り込みました。被災地の方々の苦労を思えば微々たることかもしれませんが、皆さんのご協力に感謝いたします。

2024年3月27日

第1回募金分（1月19日）
金　145,507円　（法人外の寄付を含む）
金　100,000円　社会福祉法人そうそうの杜互助会

第2回募金分（2月14日）
金　177,657円　（法人外の寄付を含む）

第3回募金分（3月27日）
金　15,888円　（法人外の寄付を含む）

ゆうちょ銀行　00100-2-488369
珠洲市能登半島地震災害義援金

冬の
就労旅行

南紀白浜

動物園と不思議体験！

1日目白浜エネルギーランド
2日目アドベンチャーワールド

グルメに温泉、楽しい
レクと大満足の2日間！













旅行日程

2/15　白浜エネルギーランドで不思議体験
　　豪華ホテルシーモアで温泉と海の幸で宴会
　　楽しいレクを開催
2/16　アドベンチャーワールドでパンダなど
　　数々の動物たちに出会う



国本　英浩

利用者・スタッフが楽しみにしていた旅行が今回もやってきました。今回の行き先は白浜方面と過去に何度かは行ったことはあるもののリクエストが多かったこともあり決定となりました。

旅行当日出発後から雨がポツポツと雨雲を追いかける形となりましたがバスの中では外の天気とは違いバスレクで盛り上がっています。いつも恒例の新人紹介では初めて参加する利用者・スタッフの紹介があり、緊張していた方も紹介後は暖かく迎えられています。1日目の行き先であるエネルギーランドに到着。雨は小雨であり、それほど気にするようなことは感じず皆さん楽しまれています。目の錯覚を利用したアトラクションに自分自身少し気分の悪さを感じはしていたもの、周りの方は体調を崩すこともなく、次々とアトラクションをこなしているのを見て自分の年の衰えを感じることになりました。

今回宿泊するホテルはホテルシーモアで館内に色々なセレクトショップがあり2種類の大浴場や露天風呂と豪華なホテルでした。食事は白浜沖でとれる海の幸を堪能しました。朝食は皆さん大好きなバイキングで半数の方はお皿が茶色の料理でまとめられていましたが逆に色彩豊かにお皿に盛り付けている方も何名かいました。

2日目は一番楽しみに待っていた南紀白浜アドベンチャーワールドへ直行。
沢山の動物を見ることが出来、日頃動物が苦手な方も楽しめていました。中でもジャイアントパンダは人気がありバスの中でも話題にはなっていました。動物たちの世界を列車に乗って連れていってくれたケニア号なんかも大好評でした。

今年の冬旅行も大きなトラブルなどもなく、年々皆さんが旅行慣れしていることや周りをよく見てくれており他の方をサポートしてくれることもあります。毎年夏、冬と旅行に行っていますが、そのことを踏まえて旅行に関してもステップアップした内容を考えていかないといけないかと感じさせられました。

板見　善子

今回の冬の旅行は、期待と不安が入り混じり、旅行の話でウキウキと話す人が増えてくると、、とても落ち着かなかったのを覚えています。初めて参加する利用者やスタッフも多くあり、どんなことがあるだろう…と色んなことを想定していました。

1日目の白浜エネルギーランドでは、目の錯覚等の体験や映像が沢山ありました。ミステリーゾーンでは、平衡感覚がおかしくなり、立てなくなって、同じグループの人たちはフラフラしながらも、はしゃいでいました。

ホテルでの楽しみは、温泉と宴会レクリエーションです。レクリエーションでも五感と経験を使った、テレビ番組のゲームを取り入れていました。部屋割りでのチーム分けで一体感もあり、それぞれを応援する姿もありました。しかし、最終的にはフラフラ…目が回る1日目でした。

2日目のアドベンチャーワールドのメインはやはりパンダ！パンダがゴロゴロと寝転ぶ姿を見てパーカーのフードを被って、パンダになった気分を満喫している人もいました。

いつもと違う体験は、緊張や不安を上回る楽しみもあります。しかし、一泊旅行への参加が体力的にも難しい利用者も増えてきています。「一泊はできないけれど、出かけたい・遊びたい」を、どのように作っていくか課題となっています。「〇〇したい」という声を聞きながら、利用者と共に作っていく企画が多くなるように、次回の夏旅行に向かっています。





藤原荘と活用計画

2023年度スタッフ研修Dグループ

藤原荘とは昨年そうそうの杜が購入した三重県志摩市御座白浜にある建物のことである。昨年1月に亡くなられた藤原静江氏が遺産約5000万円を全額法人に寄付いただいたこともありその一部を利用して購入した。藤原静江氏は、日本ライトハウスで視覚障害者の訓練を長年続けてこられ、退職後もボランティアや個人の活動を通して視覚障害のある人達を支援し続けていた方で、「藤原荘」の名前はもちろん藤原静江氏が由来である。

車を利用すれば30分前後で賢島やスペイン村まで行くことができ、1時間ほど時間をかければ鳥羽や伊勢神宮の観光も可能で、行きや帰りに立ち寄ると時間のロスも少なく観光が楽しめる。また夏場は御座白浜海水浴場まで徒歩10分で行くことができ海水浴が楽しめる。庭は広くテントを張っての宿泊やBBQをすることも可能だ。

そんな藤原荘だが普段は無人であることもありメンテナンスをどうするのか、またどう活用していくのかを法人内で關先生指導の下、スタッフ研修で取り上げ検討した。以下内容を抜粋してお伝えしたい。

海の家「藤原荘」活用計画

「藤原荘」の考え方
・「非日常」での余暇
・利用しやすい「藤原荘」
・福利厚生として
・特別な「藤原荘」

メンテナンス・藤原荘の状況
・おおまかな掃除は済み、掃除用具は買い揃えてある、使えない物の廃棄は必要
・庭など更にメンテナンスが必要
・入口、一階部分は段差がなく車椅子での移動は可能。和室にベッドも置ける
・風呂場・脱衣所・トイレが広いため、車椅子の介助がしやすい

食事・余暇　他
・ガスコンロや水回り等の修理、購入の必要あり
・鍋、BBQがおすすめ。夏は海水浴が楽しめる
・冬は御座白浜だけで過ごすのでは物足りない。近隣の観光施設の利用
・4時間程かかるため移動の負担は大。家の前の幅が狭いため大型バスは無理

「藤原荘」のファンづくり
・「藤原荘」　魅力・価値
・周辺地域を含めた強み
・情報発信方法　（機関紙・法人HP・SNS）
・法人独自のマップ
・広報の効果・評価（閲覧数・利用頻度・アンケート）

ロードマップ
・単に泊まれる空間ではない、他の施設とは異なる体験、特別感のある利用を目指していく
・そうそうの杜のならではの活動、利用者、地域との繋がりを検討していく
・まずは利用しやすい時期である夏場を目途に整備していく
・ロードマップ参照

メンテナンス計画
3月：有志を募りメンテナンス旅行
6月：スタッフ新人研修を兼ねて、メンテナンス旅行
11月：スタッフ新人研修を兼ねて、メンテナンス旅行
・スタッフだけが取り組むのではなく、利用者にも参加出来るような計画にしていく
・掃除だけではなく「藤原荘」をより過ごしやすく、楽しめる場所にするために庭のDIY（ピザ窯作り、ブランコ作りなど）も併せて行い、「藤原荘」を利用者と一緒に作り上げていく

実施上の留意事項
・利用者と共に作る「藤原荘」を目指す

藤原荘ロードマップ（夏）

	準備期間	準備期間（2~4月）	準備期間（5~7月）	宿泊スタート（7~8月）
		フェーズ①（段階）	フェーズ②（段階）	フェーズ③（段階）
		アクティビティ①	アクティビティ②	アクティビティ③
アクティビティ（活動）	計画（夏のスタートに向けて）➡	➡	➡	↻
	メンテナンス旅行（3月/6月/11月）①	換気/草刈り/衛生対策	換気/草刈り/衛生対策	室内整備チェック・試運転/完了
	メンテナンス旅行（3月/6月/12月）②	DIY/購入（食器・布団・インテリア等）	DIY/購入（食器・布団・インテリア等）	室内整備チェック・試運転/完了
	広報（観光マップ・周知）	開始時期（夏仮）に向けて	観光マップ・別荘内利用案内作成（ルール・パンフレット）	完了
	会計・予算・経費・修繕費	物品購入/DIY資材など	物品購入/DIY資材など	完了
	各種届・手続き	随時	随時	完了
結果	課題・評価 ➡	検証・改善 ➡	新たな展開 ➡	↻
	利用者の評価	改善案	新たな展開の検討	➡定期利用者を維持する
	そうそうの杜ならではの活動			➡新たな利用者の獲得
	法人・地域・利用者にとっての意義			➡来年に向けての広報の検討
				➡そうそうの杜のブランド力

上記計画案にあるメンテナンス計画に沿い、鴻池生活科学専門学校卒業生の卒業旅行も兼ねて卒業生8名とスタッフ3名で今年の3月8・9日に現地へ訪問した。

現地に訪問してみてある程度室内はきれいに保たれていたため、使用前後の日常生活清掃で問題ないように感じた。ただ、庭の雑草は夏前には毎年刈る必要がある。また、ボコボコしているため出来れば整地もしていきたい。

備品は本格的に活用する夏前には買い揃えたい。洗濯機やエアコン、寝具類、水道の修理など次回のメンテナンス旅行で計画的に購入、修理が必要。

今回はテラスでBBQを行った。隣人は不在のため騒音で迷惑をかけることはなかったが、在宅時は庭での騒音には気をつける必要がある。部屋の中で窓を閉めているとカラオケをしていても隣家に音が漏れるようなことはなかった。

大阪では見ることのできない綺麗な夜の星空は一見の価値あり。

藤原荘まで 三重県志摩市志摩町御座
・車　約4時間程度（高速道路利用）
・電車　約3時間30分程度（賢島まで）　賢島から車で30分程度
　電車の場合　普通運賃のみ障害者手帳での割引あり





わかりやすいミャンマーのこれまでと現在について



kawasemi　北橋 惇

2021年のクーデター以降、混迷を極めるミャンマーの情報をお伝えいたします。

日本は世界最大のミャンマー援助国として政府開発援助を行っているだけではなく、ミャンマーにおいての日本の人気も高く、昨年末時点での在留外国人数は、アメリカや台湾を抜いてミャンマーが8位となりました。日本にいるアメリカ人よりもミャンマー人のほうが多い状況です。

しかしミャンマーから若者たちが日本に来るのは簡単なことではありません。ときに親族からお金を集めて日本に渡ってきている場合もあり、我々の目に映るのは彼らひとりの姿であっても、その背中にはミャンマーからの大きなものを背負ってきていることは、我々が忘れてはならない事実です。

そうそうの杜でも本年度より、ミャンマーの方7人の正職採用が決まり、彼らの活躍に期待するとともに、一層我々にはミャンマーと日本の橋渡しとなる役割が求められています。

今後機関誌では、定期的にミャンマーに関する情勢ならびに最新情報をお届けいたしますので、両国間を橋渡しする知識の一助としてお役立てください。

なぜミャンマーは混迷しているのか

ミャンマーは長い期間、軍が統治していた軍政国家であり、経済制裁を受けたこともあるほど、民主化とは程遠い国でした。その後、世界からの経済支援を受けるべく、軍による形だけの民主化が行われたものの、2011年にアウン・サン・スー・チーさんたちが率いるNLD（国民民主連盟）が立候補し、国民の圧倒的支持を受けて議席の8割を獲得したことにより、大きく民主化への道が進みました。それから9年後となる2020年、再び選挙でNLDが前回を遥かに上回る支持を得て議席を獲得したことで、軍による激しい反発を受けることとなりました。軍は選挙を不正とし、スー・チーさんたちの身柄を拘束してクーデターを起こしたのです。

これまでであれば軍の力は圧倒的であり、国民は言いなりで終わっていたかも知れません。しかしNLDのもと、10年近く民主化を経験した国民たちは、もう軍の影響下に戻ることを拒絶したのです。連日、何十万人もの国民によるデモが行われ、鎮圧する軍隊の手によって数え切れない一般市民が命を失いました。また、ミャンマーは人口の3割を少数民族が占めている国ですが、3つの少数民族による武装勢力が軍を倒すべく蜂起しました。混乱に乗じて勢力を拡大したい意図もあるでしょうが、どちらにせよ戦火による被害を受けるのは国民です。すでに死者は5000人以上、拘束されている国民は25000人を超え、ミャンマー全土を巻き込んだ戦火が繰り広げられています。

アジア最貧国に戻りかねない状況

今年2月から、志願兵だけでは維持が厳しくなった軍による徴兵制が開始されると、徴兵を逃れるため国民が旅券の申請窓口に殺到しました。徴兵されれば国民同士で戦うことになり、これを望んでいる者はひとりもいないでしょう。軍は国民の自由な渡航を禁止しました。また、軍では現在、イスラム系の少数民族・ロヒンギャを強制的に連行して戦闘に参加させており、これらが民族浄化の目的であるならば、世界の歴史を逆行する蛮行だと言わざるを得ません。

さらに国連は、6月から8月の3か月間に270万人のミャンマー国民が飢餓に直面するとの報告書を発表しました。ミャンマー各地で戦闘が激化した影響で避難民が急増し、幹線道路の寸断などで支援物資の提供にも支障が出ているということです。このため270万人が飢餓に陥り、1060万人が深刻な食糧不足に直面する可能性があるとしています。428000人の子どもが重度の栄養失調に陥っており、困窮は危機的状況となっています。

また、経済における影響も見逃せません。民主派勢力NUGによると、ミャンマーの経済は崩壊寸前であり、60％増えた軍事費を確保

するため紙幣の増刷を続けた影響で、貨幣価値は下落していると伝えられ、国民は資産を守る最後の方法として金に替える者が急増、金の取引業者を軍が拘束するという事件も起きています。経済発展を遂げてきたミャンマーは今、アジア最貧国に逆戻りしかねない状況だといえます。

いま我々にできることはなにか

ミャンマー最大の援助国である日本は、現在新規の政府開発援助を止めていますが、これらをいつ、どのような形で再開させるか、それによってミャンマーの政治にどのような影響を与えるか、外貨獲得が極めて困難となっているミャンマーにおいて、政府開発援助は垂涎の的であり、ここに日本官僚の外交手腕が試されているといえます。積極的に仲介に入っているASEANを筆頭に、硬軟織り交ぜながら外交術を尽くしてミャンマーの民主化に向けて協力していくことが必須であると言えるでしょう。

軍の横暴に直接他国が介入できないのかと言われれば、国連の決議があれば可能ですが、ミャンマーを政治的・地政学的に利用したい中国・ロシアの存在、特に中国においては、他国の政治に国連が介入する前例を作ることをよく思っておらず、苛烈な反対が予想されます。

また、ミャンマーは輸入・輸出の3割を中国が占めており、港であるチャウピーには中国が経済特区を設け、中国国有企業の開発権を得て、アメリカ側に縛られない中東との石油パイプラインを構築、インド洋の覇権を狙うことを視野に入れています。

軍事政権は国際的な非難を受ける中、中国・ロシアの後ろ盾を求めており、中国・ロシアもミャンマーの地政学的な要衝としての旨味を享受する腹づもりがあります。

各国の思惑が入り交じる中、積極的に政治に介入するような支援が難しいことにもどかしさを感じますが、我々にできることは、ミャンマーで起きていることから常に目を離さず見つめ、隣人としてできうる限りのことをするという決意を持つことに尽きます。

ミャンマー軍は今、国民からの支持をまったく得られていないため、崩壊は遠くないのではないかと噂されることもありますが、その後には長い長い復興への道のりが待っています。

いつどんなときも、彼らのために支援の準備をしておくことは、同じ国際社会を生きる上での人間としての責務だと言えるでしょう。

この機関誌では、今後もミャンマー情勢を追いかけていきますので、ぜひご覧いただきますようお願いいたします。



写真は日本ビルマ救援センターの募金の様子です。振込先は
金融機関：りそな銀行　支店名：金剛（こんごう）支店
口座番号 ：(普)6553928　口座名義：日本ビルマ救援センター

期待の新入スタッフ紹介

2021年4月からそうそうの杜で留学生としてアルバイトをしながら鴻池生活科学専門学校に通学していたミャンマースタッフ7名と日本人スタッフ1名の計8名が2024年3月に卒業し、4月1日よりそうそうの杜の正職になりました。特にミャンマースタッフは自国が内戦状態で家族のことを心配しながらも、日本語を勉強し、アルバイトをしながら介護福祉士を目指し頑張ってきました。今後8名は即戦力として頑張ってくれると思います。そんな8名の声をお届けしたいと思います。



AUNG NYEIN SOE

アウンニェインソー

日本に来る前、大学３年生の時、学校の友達と一緒に老人ホームに行ってボランティアをしたことがありました。その時から、私はこの仕事はボランティアではなく、仕事としてやっていきたいと考えました。

大学を卒業後、Yangonに行って日本語を勉強しました。その時日本で高齢者のお世話をする介護の仕事があることを知りました。そして、日本に行って介護の勉強をやろうと決めました。

でも、日本に来るまでは、介護は高齢者のお世話をするだけかと思いましたが、日本に行ってから、介護は高齢者のお世話をすることだけではなくて、すべての方たちにも自分らしい生活ができるように支援することもあると知りました。

私はそうそうの杜でアルバイトをやりながら、もっと勉強したいから、日本語学校を卒業して介護の学校に入学しました。私は外国人なので学校で勉強するとき、専門語が多いし、漢字も多いし、とてもむずかしかったです。

でも自分が好きで選んだことだからあきらめないで頑張りました。今後はそうそうの杜で正職として仕事をもっと頑張り、将来もこの仕事を続けていきたいと思います。



AYE NI HLAING

エーニーライン

ミャンマーにいた時は、日本に行って介護の仕事をするつもりはありませんでした。なぜなら、私は車に関する事を学びたかったからです。自動車の専門学校に通って、卒業した後それに関連した仕事をしようと考えていました。

しかし、日本語学校に通いながらそうそうの杜でアルバイトとして働いているうちに、介護の仕事に興味を持ち始め、高齢者や障害者の世話をすることが楽しく好きになりました。

そうそうの杜で介護をすることに決め、介護専門学校に通って卒業するまで頑張りました。現在卒業し、社会人として介護の仕事をしていますが、私が外国人であるため理解できないことがたくさんあります。しかし、自分の好きな仕事であるため、わからないことは一緒に仕事をしている日本人スタッフに聞いて、楽しく仕事をしたいと思います。



AYE PHYU ZIN

エーピュージン

日本に来て一年間、日本語の学校を通いながらそうそうの杜でアルバイトをし始めました。日本語学校を卒業後、介護の専門学校に行って介護と障害について勉強をしました。

アルバイトしながら介護の授業は難しかったですが、荒川さんと宇野先生から、わからないことや困ったことを助けられながら二年間頑張って今年の3月に専門学校に卒業できました。

将来ミャンマーに戻って障害者を助ける仕事をしたいと思いますが、今はミャンマーの国の状況で前より難しくなっています。

今年の4月からとことこっとに配属されました。始めてなので覚えることもたくさんありますが、この仕事が好きで難しいことがあっても頑張っていきたいと思います。



SUE MYAT THWE

スウミャットエ

2020年に来日しました。1年3か月、神戸の国際語学学院で日本語を勉強しました。その後、大阪に引っ越しして鴻池生活科学専門学校に2年間介護について勉強しました。

学校に通っている間、そうそうの杜でアルバイトをしました。1週間に28時間仕事をしました。学校を卒業した後はそうそうの杜のスタッフになり、今はつむぎ館で働いています。

そうそうの杜のスタッフはみんな優しいので仕事をするときは楽しいです。わからないことがあるとき、日本人の先輩たちが優しく教えてくれました。利用者たちと一緒に楽しくコミュニケーションをとることが好きです。コミュニケーションが取れると利用者のたのしい笑顔が見れるので私たちもうれしくなります。

そうそうの杜で7年くらい勉強しながら、利用者と一緒に楽しく生活をしたいです。日本語ももっと上手になるように頑張っています。



TIN HTAR THWE

ティンタートゥエ

私は4月からとことこっとに配属されました。日本に来て3年半になります。日本に来て日本語学校に行っている時からずっとそうそうの杜でアルバイトをしていました。その時からこの仕事に興味があり、日本で社会人になったらこの仕事を続けいきたいので介護の専門学校に行きました。

介護の専門学校では介護について色々挑戦したり、実習に行って実践したりしました。卒業してから学校で学んだことを実践し、先輩たちから教えてもらった仕事のやり方を基本にして、もっと自分がやりやすい方法で実践しています。

これからもいい社会人になるように一所懸命頑張っていきたいです。



西里 心呂

にしざとこころ

介護福祉士として学んだことを活かして利用者の皆様が笑顔で過ごせるよう取り組むとともに、利用者の方々と信頼関係を築きながら一緒に成長していきたいです。



MYO THUYA

ミョートゥーラ

アルバイトと正職の違いはたくさんあるので、学ぶこともたくさんあります。

その中から日本の料理をもっと上手にできるように頑張りたいです。また日本語ももっと話せるように頑張ります。



YADANAR HTUN

ヤダナートゥン

私の意気込みは、仕事の中で利用者を理解し、より良い介護サービスの提供につなげること、介護職や看護師、リハビリスタッフなど、チームで話し合って解決に向けて取り組むことです。

そのためにコミュニケーションと日本語が上手くなるよう頑張っています。

そうそうの杜ニュース

2024
05

そうそうの杜のホットなニュースをお知らせします



城東区長が杜のShokudoに来店されました！

城東区広報誌『ふれあいJOTO』で杜のShokudoを紹介していただけることとなり、城東区長である吉村区長が杜のShokudoにご来店くださいました。

雨の中来店してくださった吉村区長は、杜のShokudoの豊富なビュッフェメニューを堪能され、「1回ではとても食べられないね」とご満足されていたご様子でした。

付き添われていた職員の皆様にも、ヘルシーな食材やスイーツなどが好評で、杜のShokudoの魅力を感じていただくことができました。

数多くある鴫野のレストランの中で、第一号に杜のShokudoを選んでくださったのは、杜のShokudoがスタッフと利用者が二人三脚で作り上げているお店であることに興味をもっていただき、区長自らご来店にて視察される運びになったそうです。

今回ご来店いただいた様子は、『ふれあいJOTO』及びそうそうの杜YouTube等でもご紹介いたしますので、皆様ぜひ御覧ください。

今後とも鴫野の街で、杜のShokudoが地域の皆様の中に根付いていき、皆様の憩いの場所になることを願っています。

吉村区長、城東区職員の皆様、この度はありがとうございました。

ふれあいJOTO公式サイト

INTERVIEW 近隣の方へのインタビュー

01



商店街は人でいっぱいで楽しかった

真頼：この地に商売を始めてどれくらいが経過していますか？
岡田：私で4代目…100年以上経ってるかな。元々は、私の曽祖父が中道の商店街で雑貨屋さんみたいなのをやってた。戦後に父が鴫野東に移転したんよ。
真頼：城東小学校卒業ですか？
岡田：母・わたし・息子みんな城東幼稚園、城東小学校、城陽中学校出てるよ。昔は子どもが多かったしねえ。
真頼：小さい頃は、どんなことして遊んでたんですか？熱中してたこととかは？
岡田：南鴫野商店街が遊び場…狭い路地があちこちにあって…商店の子どもは店の金を持ち出してねえ…みんなやってたわ（笑）まあ、この辺は焼夷弾で焼けたから…焼野原…南鴫野商店街もそもそもは闇市からのスタートやから。
真頼：悪いことしてましたねえ（笑）
岡田：親も知ってたと思うよ。
真頼：最盛期の南鴫野商店街ってどんな感じやったんですか？
岡田：商店街は人で一杯やったよ。年末なんかは特に…自転車も人のすれ違いも無理なくらい…小さい頃はぐっちゃぐちゃ…店も多いけど人も多いかった。スーパーとかは無いから、みんなここで買い物するしかないし、遊ぶところもなかったし。いろんな店に出入りして必要なん買うてたわ。それが楽しいんよね。
真頼：ちなみに、おかだやさんが取り扱ってる商品は、学用品も多いのでなくなることはないのかと思いますが…
岡田：私が子供のころ、城東小学校で1学年に6クラスくらい。城陽中学校は1学年に1,000人くらいおったわ。城陽中学校は分校があったんよ。生徒が多すぎて…12〜13クラスぐらいあって、グランドにプレハブの教室が建ってた。今は1学年200人くらいかな。
真頼：昔に比べて子どもの数が減ってしまうと、今後の商売も厳しくなるのでしょうか？
岡田：そうやね、でも今はアイテムの種類が増えてるよ…夏用の帽子と冬用



有限会社おかだや
代表取締役

岡田善弘さん（64歳）

鴫野幼稚園、小学校、中学校に通われるお子様を持つ親御さんなら、多くの方がお世話になったことがある「おかだや」。豊富な学用品の取り扱いが近隣の方に喜ばれています。
鴫野商店街とともに時代を駆け抜けた「おかだや」の代表取締役である岡田さんから、鴫野にまつわるさまざまなお話をお聞きしました。



いろんな物をいろんな店からわあわあ言いながら買うて帰るっていうのが一番の魅力なんよ。それが商店街なんよ…そういうのをみんなに知ってもらいたいなあ。

が違ったり、給食用当番用の白衣が個人で準備するようになったり…清潔保持の考え方が浸透してるね。1年中半ズボンやったけど、今は長ズボンあるし…女子がズボン選べたりするし…女子のズボンは男子のズボンとは股上が違ったりするしね…

真頼：祭の衣装とかも販売してるんですね…

岡田：町で管理する町名の入った衣装は別で町が管理してるけど、パッチとか祭袋は販売してるよ。今の祭足袋はエアーが入っててクッション性いいやつとかもあるしね。4,000円くらい。

真頼：その時その時の時代で、商品も商店街も人の考え方も変わっていくんですね。今の商店街について、思うところはありますか？

岡田：人呼びたいけど…無理やもん…個別にすんねんけどな…みんなもお年やし…米屋とか豆腐屋とかはやめるのはやかったよ…スーパー出来たら商店街よりも安いのをスーパーで買うようになってしもうたし…

真頼：流通と経済、利便性とかを考えるとそうなのか…と思ってしまいますが…最後に、これからの南鴨野商店街に期待することとか未来への展望などお聞かせください。

岡田：商店街の魅力って「生鮮三品」ていうて青果・精肉・鮮魚を複合的に…いろんな物をいろんな店からわあわあ言いながら買うて帰るっていうのが一番の魅力なんよ。それが商店街なんよ…そういうのをみんなに知ってもらいたいなあ。あとはそれこそ、そうそうの杜さん…一緒にね。



鴨野商店街のさまざまなお店に話をお聞きすると、やはり昔の鴨野商店街がどれだけ多くの人達に必要とされ、愛されていたものだったかが伝わってきます。時代の流れとともにお店のありかたも変わり、訪れる人達は減ってきているのかも知れませんが、もう一度鴨野が多くの人達に愛され、より暮らしやすい街になるように、そうそうの杜では鴨野エリア活性化プロジェクトを進めています。

しぎのぼっちゃ・モルック大会（第5回）



本部　松本 智幸

毎年恒例となっているしぎのぼっちゃモルック大会を今年もゴールデンウィークの5月3日（金）に城東幼稚園の運動場を借りて行いました。今年も晴天に恵まれ、地域の数多くの団体、チームに参加いただき開催することができました。

南鳴野商店街ではフリーマーケットも同時に開催され商店街周辺はいつもと違う活気に満ちていました。

大会は午前１０時に始まり、開会式で城東地域活動協議会会長 片岡様、城東区役所保健福祉課課長 椿本様に挨拶をいただいた後試合を開始。ぼっちや・モルック共に、途中休憩をはさみ１４時まで予選を行い、予選4グループから選ばれた各１チームが１４時からの決勝トーナメントに参加しました。決勝戦が終わったのは１５時ごろでしたので、長時間にわたり熱戦が繰り広げられました。

試合の中で「やったー」「よっしゃー」などの声が上がったり、試合が始まる前に円陣を組んで気合を入れるチームがいたりと、各チーム盛り上がっておられたように感じられます。２試合の合計点数で勝敗を決したのもあって、皆さん得点発表の時には緊張の面持ちで発表を待っておられ、結果が発表されると勝ったチームは思いっきり喜んでおられましたが、お互いのチームを称えあうように最後は両チームが拍手をして終わっていたのが印象的でした。試合時間は２試合しても３０分程度で短かったのですが、参加していただいた方々には楽しんでいただけたように感じます。

予選からの時から接戦もありましたが、決勝戦や３位決定戦ではさらにレベルの高い試合が繰り広げられ盛り上がっていました。モルックの決勝戦では点数計算を間違ったために負けたチームに「優勝です」と間違ってアナウンスしてしまうハプニング(？)もあって、選手の皆さんは一喜一憂されたと思います。しかし閉会式では興奮冷めやらぬ方々がマイクを握り喜びの声を伝えてくれていました。以下3位までの表彰チームです。3位までのチームには豪華？景品が授与されました。

＜ぼっちゃ＞
１位　城東校下地域活動協議会男性部
２位　集まるかい1
３位　チーム大福

＜モルック＞
１位　チーム初心者
２位　つむぎオールスターズ
３位　おでん2（伝）

モルックで優勝した「チーム初心者」さんをはじめ、ぼっちゃ・モルックともに上位で表彰されたチームの中に初参加のチームが何組もおられました。来年以降も多くの団体・チームが参加していただけることを願っております。

最後になりましたが大会に参加いただいた団体・チームの方々はじめ、城東区役所、城東地域活動協議会、試合会場を提供していただいた城東幼稚園の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。





鴫野商店街フリーマーケット



おいもの国のアリス　駒澤 美羽

2024年5月3日、去年に続き2回目のフリーマーケットを開催しました。去年は3日間開催しましたが、今年は1日のみでしました。一般の方3名、事業所で8グループほど出店していただきました。ポッチャモルック大会と同時開催とのこともあり人手が足りない中、参加していただきありがとうございます。おかげで商店街はいつもよりたくさんの人が来て賑やかになったと思います。

一般の方は子供服などを出展しているかたや食器や古着など主に雑貨を販売している方が多かったです。中には子供さんと一緒に販売している方もいてくじ引きなどのイベントをしていたり、ほかの店でお買い物をしたりと楽しんでおられました。おこずかい程度は稼げたと教えてくれました。出店してくれた外部の方は皆さん来年もぜひやりたいと言ってくれました。1回目から参加してくださった方は2名いらっしゃいます。そうそうの杜の人たちと外部の地域の人たちや他事業所と関わりあえる機会になれたと思います。今後多くの方に来てもらうには事前の告知、SNSでの更新を定期的にすることなど必要と感じました。

事業所では座座が白玉ポンチを販売。フルーツのトッピングとお好みできなこやあずきを使用で150円！利用者さんが3～4人順番に店番していました。なかでも山田さんはたくさん声をかけ頑張っていました。いつも変わった店を出すので来年も楽しみにしています。

Prifeでは輪投げで5つかけられたらタコせんが2枚　1本でもかかったら1枚　かからなかったらタコせん半分がもらえます。1回100円です。天かすソースマヨで間違いない味でした。ですが売り上げは赤字だったようで…また夏祭りで挽回するとの事です。

つむぎ館では池田さんが手作りのお手玉や、昔のCDやレコード、手書きのイラストを販売。北川さんが店番をしながらお絵描きや色塗りをしており、まるで作家さんのようでした。池田さんは着物を着て参加。盆踊りの着物だそうで気合十分です。その他利用者さんとスタッフで店番をしていました。

いま福の家ではいらなくなった食器類を販売していましたがよく見ると高そうな器も多くおばあちゃんたちが買っていく姿を多く見かけました。高木さんが店番していることが多く、売るものが多かったのでもっと広く使えたらよかったね、机もう一個必要だったね、などスタッフさんと話し合っていました。

杜のShokudoではお弁当を販売。肉巻き、鮭のフライ味噌タルタル　塩麹タンドリーチキンと定番メニュー五種類を計20個作りましたが11時ごろから販売し即完売いたしました！みんな「完売早かったね」とうれしそうに話していました。

Lianの杜ではプチトマトとハムのパンやアンパン等を販売。それも15時ごろには完売していました！

おいもの国のアリスでは、おいものチュロスとフラペチーノを販売。午後からたくさん売れ、その場で提供になるので大忙しでした。最後のほうは伝の皆が楽しくお客さんに宣伝してくれて2万円ほどの売り上げを達成しました。

創奏ではジュース、手作りのミサンガやさをり織などを販売、少しは売れたようです。利用者さんは交代で店番をしていました。

げんげんから委託で販売したぬいぐるみやフィギアは大盛況でたくさん人が集まっており1万円も売れたそう。草部さんがゲームセンターでいろいろ取った品を寄付してくれたとのことです。げんげんの利用者さんもいろんなお店を見て回っていました。

伝も後半いろいろなお店に見回りに行って買い物など楽しんでいて、他事業所の方もフリーマーケットのチケットを使って買い物をしていて、とてもにぎわっていました。

当日も商店街の店舗は通常通り営業していました。商店街の方たちはよく利用者さんにしゃべりかけてくれていて、今回のイベントも快く承諾していただき、なにがあるん？など毎回楽しみにしてくれています。フリーマーケットの用意をしていると、「年寄りやからもう頑張られへんけどよろしくな！」と冗談を言いながらもフリーマーケットに期待をかけてくれたり、「シャッター前をつかってもいいよ」と声をかけてくれた店主もいて、みんな協力してくれているんだなぁとしみじみ感じました。

中にはフリーマーケットは別によくない？やボッチャモルック大会だけでよくないかなどの意見もありましたが、やはり同時開催することによって人が集まり出店などをすることで売り上げなども伸びたので意味はあったのかなと感じています。もっとボッチャモルック大会と同時でやれて地域も参加できるような企画も募集していますし、今度は場所を変えて全部幼稚園か小学校でフリマもボッチャモルック大会もやってみてもいいのかな、と考えています。ご意見やご感想もお待ちしていますのでよろしくお願いします。今回はありがとうございました。



こいのぼり街道



kawasemi　北橋 惇

今年も、5月の晴れ晴れとした青空に100匹もの鯉のぼりが空を舞ってくれました。例年行っている鴫野エリア活性化プロジェクトの『こいのぼり街道』ですが、去年と同じくワークスユニオンの利用者さんが精魂こめて作ってくださった鯉のぼりを買い取らせていただき、スタッフ、利用者さんで協力して、商店街の端から端までこいのぼりが舞うように飾り付けました。商店街を行き交うひとたちの頭上を舞う色とりどりのシルエットが、新しい季節の訪れを感じさせてくれました。

もうご家庭でもめったにあげることのなくなった鯉のぼりですが、幼稚園や小学校のこどもたちにとって、これが時には「初めての鯉のぼり」になり、思い出のひとつとして記憶を彩ってもらえたら嬉しいと感じます。

また、ボッチャ・モルック大会、フリーマーケット開催の際には、制作者である利用者さんとそのお母さんも訪ねてきてくださり、「作品を飾ってくれて嬉しい」と笑顔で写真を撮影されていかれる嬉しい出来事もありました。こちらこそ、大切な作品をお譲りいただくことができて感謝の限りで、ぜひとも来年もまた、素敵な鯉のぼりたちに青空を舞ってほしいと心から願っています。

鴫野エリア活性化プロジェクトはもう6年目になりますが、鴫野商店街にはたくさんの人々の繋がりが生まれてきているように感じます。これからもそうそうの杜が近隣の皆さまとともに歩んでいけますように願っています。



鴫野の魅力再発見

no.1

ランチ350円～
カフェも充実

お食事喫茶えんじゅ

大阪府大阪市城東区鴫野西1-12-17
月～金 11:00-17:00



★鴫野西エリア

地元に愛される庶民派食堂！



インタビュアー 中島 秀樹

鴫野活性化プロジェクトの一環で先日鴫野西1丁目、スーパー玉出の近くにある「お食事喫茶えんじゅ」さんに行ってきました。ここは店の外観はこじんまりとしていますが、定食がなんと500円で食事ができ、単品の丼がなんと350円から（定食だと100円プラス）食事ができ、食後のドリンクも100円、単品で150円で注文ができ、自家製のお菓子（マフィン、クッキーテイクアウト可）が100円で食べられるという良心的なお店です。

また、B型就労継続支援事業所としての一面もあります。

場所柄京橋駅に近く、今時500円で外食ができない時代になぜできるのか、運営している合同会社maki-labの代表である槙敦子さんにお話を伺いました。







500円で心から楽しんでくれる人を対象にしたい

中島　飲食店始めたきっかけというのは、一体どういう形であったんでしょうか。
槇　うちの食堂にはいろんな方が来てくださっているんですけれども、どっちかといったら、500円で心から食事を楽しめる方、普段、あまりご飯を食べに行けなくて、うちで、すごく500円で楽しんでくれる人を対象に食堂をしたいと思っていたんですよ。私は、もともと病院で管理栄養士として働いていたので、飲食が成功するためにはノウハウとかなかなか難しいぜとか思っちゃうんですよ。だから、利用者さんの力を借りてそこをカバーして、そういう人たちが楽しんでくれる食堂を作りたいなと思ったのがきっかけです。
中島　その利用者さんの声を聞いて始めたいというか。
槇　言葉は悪いんですけど、利用者さんの声聞いてないですね。自分がやりたい。利用者さんの声を聞くとか、利用者本位って言ってるけど、それって結構甘やかしてませんかって私は思っちゃってて。それは私は一企業なので、自分のやりたいことに利用者さんに手を貸してもらって、目標に向かうっていうスタンスなので。
中島　管理栄養士さんから見て、なんとなくやってみたいみたいな感じですかね。
槇　なんとなくじゃなくて、絶対やるぞみたいな感じですかね。結局生活保護にしても、失業手当にしても、1週間とか2週間しないともらえなくないですか。そしたらその間、貯蓄がゼロの人ってご飯食べれないじゃないですか。行政で柔軟にやってくれないので、うちがやったら柔軟にできるじゃないですか。だからそれでやろうかなって。
中島　なぜ鴫野の場所にやろうと思ったのでしょうか？
槇　元々、この前の建物でケアプランセンターを友達が廃業しなくちゃいけない時に利用者さんがいて、継がないといけなくなった時に、誰も手を挙げなかったので、利用者さんとかちょっと困るじゃないですか。そんなんで、初めは友達のところの法人をついでやった流れなんですよね。やった流れだけど、鴫野のほうで良かったなと思って。そうそうの杜さんもいるし、みんな鴫野の人だから。
中島　うちの理事長が中心にやっていくところがありますけども。
槇　助かります、助かります。
中島　南鴫野商店街で夏はそうめんとか、風鈴街道とか、鴫野活性化プロジェクトの一環で、もう一年はやってますね。
槇　活性化プロジェクトとか言っても、ゼロ→1をやるのってすごい大変じゃないですか。やっても、多分地域の人とか文句言ったりする人もいるんですよ。間違いなく。だけど遂行したほうが長い目で見たら、住人の人がハッピーになるじゃないですか。そこの視点に向かって、そうそうの杜も向かってるっていうのはすごいわかるんですよ。その時に、やっぱり同志がいたほうがやりやすいじゃないですか。だから私たちは、そうそうの杜さんがやってることに関しては、同じ鴫野地域で、いろんな困難の中でもやってて、めちゃめちゃ賛同しますみたいな感じですね。大変だと思いますけどね、いろいろ。ほんまに骨を折って、さすが大きいながらにできることで、私たちだったら全然人もいないし、日々の業務で疲れちゃってるんで何もできないですけど、そんな中やってるんで、手伝いはできないけど応援はしてます。
中島　料理がとてもおいしくて、なんでこの値段でおいしく提供できるのでしょうか。
槇　そうですね、物価が上がって高くなってるから、うちもちょっと見直ししなきゃあかんなって思ってはいるんですけれども、提供している原価率を前は30%で計算してやってたんですけど、今ちょっと高くなってはいるんですよ。一部セルフに切り替えて、ちょっとコストダウンしないとあかんかなみたいな。
中島　材料が一番のネックだと思うんですよね。
槇　米はおかわり自由にしてるじゃないですか。あれはうちの所長が米屋なんですよ、実家が。だから安い米をとっていながらも、米の質は結構ジャッジしてる感じで、日本の文化のルーツって、米の稲作とかに由来してる部分もあるので、うちはそこは譲れないので、日本の米を消費することによって、お米農家さんとかに、全然微力にもならない微力ですけど、米は消費してもらうために頑張ろうみたいなイメージです。安くて美味しいところを探して、あとは、買い物に行くとすごい時間がロスなので、冷凍庫、ストッカーみたいな所に肉を入れてるとかそんなのもあります。やっぱり人件費の手間を省くために工夫してる感じです。手間を省くためになんとかコストを下げて、そこを今検討中って感じですね。



槇敦子さん　Maki Lab 代表
『鴫野の優しいお母さん』と慕われている。

中島　とても盛況しておりますけども、開店当時はどのような状況だったんでしょうかね。
槇　なかなかいいこと聞かれますね。今の職員からしてみると、今順調に伸びているところにフォーカスして今の状態のサービスがいいって勝手に思いがちだけど、私はそうは思っていなくて、過去にうちの利用者さんとか、一般就労とか移行とか、全く知らない中で、ちょっとずつだけど毎日毎日やってくださった結果、今来てくださっているかなというのが、成長のやつがきっかけがあったというよりかは、ちっちゃい力だけど毎日毎日積み上げてきたのと、あとはやっぱり、金額的に安いっていうのもあると思うんですよね。前からの積み重ねっていうのもあると思うんですけどね。
中島　今回は日替わりをいただきまして、おかずをご飯にかけたいほど…かけちゃったんですけどもね。それぐらいおいしかったんですけども、おいしい食事の秘訣っていうのはどういうところですかね。
槇　これ聞かれるとね。これがおいしいかどうかはね、三角ですね。上手く掲載したほうがいいですけど、本音的には、料理する人によって味が変わったりとかするじゃないですか。前はね、私が目指してたのは、誰が作ったからおいしいじゃなくて、全部標準化されてて、レシピとか全部グラムが決まってるもの、今ちょうど料理する人がいて、その人が中心になってやってるから今の味なんですけれども、もうちょっとほんまは標準化して、常においしいものと健康的なものができるのが理想かなと思います。その辺りで結構、工夫されてると言いますか、そういう感じでしょうかね。日替わり以外は全部料理のグラムが決まってる感じで、誰が作ってもいけるっていうのと、あとは結局安いコストで作るからロスがあるとマイナスになっちゃって赤字になっちゃうんで、だから日替わり以外のものは、例えば親子丼の肉だったら1回使う肉が平べったく冷凍とか、カレーとか牛丼とかも1回分ずつ全部利用者さんが時間のあるときに作って冷凍してるみたいなイメージですね。
中島　ここの利用者さん、僕も利用者の一人なんですけども、どのような形でかかわってるんでしょうか？
槇　そうですね、うちはほとんど7割方が内職の工房にいるような状況で、食堂にいる方に関しては、食堂が暇だったときは普通にあそこにいっぱい佇んでいろんな仕事ができたんですけど、今忙しすぎてスピードが間に合わないっていう感じで、うちはB型なんで、みんなめんくらっちゃってる人が結構いて、今いる人はまず皿洗いとか、開店前の準備と、あとはお弁当を詰める。
中島　ちょっとうちのShokudoと似てますね。
槇　そうですね、お弁当を詰めたりとかする人はいたりとか、あとお菓子作り。今見直されないといけない場面が、忙しさの中で、前は食堂のメンバーだったのに入れないっていう人が出てきてしまって、別に食堂の下ごしらえ部門を今作ってる途中で、飲食の営業許可じゃないけど、お惣菜とかの仕出しとかのやつを保健所に出してるところなんですけど、そこで自分のペースでカレーの冷凍とか、牛丼の冷凍とかをできるような下準備部門を今作ろうっていう感じになってます。で、前食堂にいたメンバーとかで、あそこA型みたいな感じじゃないですか、言ってみたら。忙しいから。だからB型として、自分のペースで自分の仕事を責任持ってできる環境をすぐ近所に作ってる感じですね、今。

鴫野西はみんな50年選手で優しいんですよ

中島　そうそうの杜で、鴫野に活気を取り戻すべく鴫野活性化プロジェクトをやっておりまして、えんじゅさんは鴫野の街がどうなってほしいかお聞かせいただければと思います。
槇　なんかね、そうそうの杜がある鴫野東はどうかわからないんですけど、鴫野西って、ガチで公立大が来た時に通り道になるじゃないですか。たまたま近所の人が手を挙げてくださって、きものハウスっていう鴫野橋渡ったところに利用者さんが作ったものを置くショップがあるんですけど、あそこを鴫野西のシンボルにしたいぜぐらいの勢いの元気のある、賢くて綺麗で気が利く優しい50代の人たちが手を挙げてくださってるんですよ。うちは利用者さんがお店番とかもしてるので、そういう内容もわかっていただけるんだったら、加わってやってもらいたいなって思ってるんですけど、あそこを起点に情報発信できたらなって思ってます。利用者さんのこととか、文化のこととか、食事のこととか、いろんな意味でも活性化してほしいというか、する可能性がある。私は思いますけど、いい意味で、例えば、今福とか新興住宅地で結構若い家族さんが多い地域で、障害者の方は新興住宅地の中だと、いたずらしたりとか迷子になっても、冷たかったら安定しなかったんですけど、鴫野西のグループホームに来たら、みんな50年選手じゃないですか。戦争で焼けてなかったから。結構みんな優しいんですよ。ちょっと悪さしても、かわいがってくれるから、かわいがってもらううちに洗脳されて悪さできないっていう、そういう仕組みにこっちになってるんで。だから鴫野西は結構そういう意味では、新旧が一緒になって、ポテンシャルが高いというかやりやすいとは思うんですよね。東はわかんないですけど。

町の発展とか地価とかそういう部分で見たら、交通の便ってすごくいいじゃないですか。だから交通の便とかいいからいいんちゃうかなと思ったんだけど、栄えるのと人々に優しいとはイコールじゃないですか。だから私たちの仕事的には、そうそうの杜さんの方が社会福祉法人格やから、社会に関連しなきゃいけない部分って多いと思うんですけど、人に優しい街にするためには交通の便とか地価とかは間違いなくアップしてるから、そこは全然いけると思うんですけど、ほっといても。けどやっぱりその街作りっていうところに関しては、私たちが頑張らなきゃいけないところなのかなという感じです。鴫野西って、私たちも言うんですけど、やっぱめんどくさくないんですよ。だって鴫野地域で一番いっぱい利用者さん抱えてるってそうそうの杜さんじゃないですか。メンバー見たらみんなめんどくさくないじゃないですか。気使わなくてね、やりやすいと思いますよ。たくさんの複数の事業者さんごちゃごちゃあって、ちょっと向こうやったら私たち気使って疲れると思うけど、鴫野西ってだんらんさんとかそうそうの杜さんとかで全然気使わないじゃないですか。街づくりっていう点に関しては、鴫野の障害福祉の業者としては、めっちゃやりやすい。気を使わなくていいからやりやすくて、逆にさっき言ったみたいに、鴫野西の地域で、着物ハウスを若者のシンボルにしたいという有志が現れて、もしあそこがいい感じで発展したら、私たちの中ではそうそうの杜さんの作ったパンとかも並べるんじゃないかとか、協力しやすいじゃないですか。

中島　そうそうの杜も、東日本大震災がきっかけでしょうかね。宮城県の方といろいろ交流とか、上の方でやってみたいですけど。

槇　そういうのもね、そういう意味でも、ちっこい自分たちのちっちゃい利益とかじゃなくて、いろいろな人たちの希望になるために動いてるのはもうみんな知ってるので、そういう意味ではやりやすいです。だから自分のところだけ頑張ろうと思ってるところとかだったら、話しても響かないけど、みんなでこういうふうにして、こういう大義がありますよとか、こういう希望がありますよって言ったら、あんまりめんどくさい質問しなくてもわかってくれるんで、そこはやりやすいです。

中島　あとは事業所のつながりとか、もっとどんどん盛り上げたいっていう気持ちもありますよね。

槇　全然ないんですよ。なんでかって言ったら、自分のところだけで精一杯で。ほんまに疲れちゃって、いろんなところに週1回とか出向いて、1ヶ月に1回の会合とかね、とてもじゃないけど、ほんま行った方がいいのはわかってるんだけど、力ないですね。私も代表が1人だし、お金もかかるし、いろんなことで出なきゃいけないから、余裕ないですね。手繋いでっていうよりかは、近所にいて話しやすいからいいわみたいな感じで、ちょっと助かってますね。うちが生活介護とか、たくさんの種類の事業所を作らないっていうのは、身の丈知ってますので、あんまり幅広いところを支援しようと思って利用者さんに失礼があったりとか、判断間違いとかあるとやばいので、うちはB型とグループホーム、ほんまにこれに絞ってます。他にちょっと身体とか精神とか、ちょっと大変な時は、他の事業所さんの専門性とかあおって、B型とグループホームと相談支援しかできないくらいのキャパですね。

中島　うちの理事長にどんどん相談してもらっても構わないですよ。

槇　大丈夫です、年中相談してる（笑）。うるさいって言われてるかもしれない。今日も2回話しました。一番が、利用者さんが地域と文化を支えるっていうのがコンセプトで、結局、私も全然エリートじゃない。適当な普通の女子大を出て、マニュアル教師になりましたって感じで、やっぱり力を合わせたら、普通の企業よりも、すごいんだぜっていうのをメッセージにしたくて。えんじゅとかも今すごい食堂繁盛してくださってますねって言ってるけど、あれも利用者さんがいるからじゃないですか。敵対してるわけじゃないけど、一般就労の人たちが一生懸命集まって、一般の人がやってる食堂でも、近隣でも潰れてるところとかあるじゃないですか。私たちは利用者さんと力を合わせたら、それなりに普通のところよりもよくできるし、何だったら、おごるぜチケットで困ってる人のお助けもできるし、文化も支えるっていうことで、私も文化を支えるって言ってる割には、疲れちゃって着物どころじゃないんですよ。けど利用者さんは時間にゆとりがあるから、着物とかにも直面できて、そういう文化を支える仕事ができるので、うちは私がやりたいことを利用者さんが体現してくださってるというか、形にしてくださってる。だからみんなはどう言うか分かんないけど、私は別に利用者さんを支援してるっていうよりかは、自分の目標のために利用者さんに仲間になってもらってるっていうイメージですね。これが支援者としてどう言われるか分かんないけど。だけどよろしくねって感じ。このまま走りますんで。一生懸命目標に向かってもらうためには働いてもらわなきゃいけないし、働くためには住居で安心した生活を送ってもらって、来てもらうのが大切なんで。地域の困った人たちとか支えて、文化も支えて、その形に向かっていきます。

中島　ありがとうございます。

槇　ほんまにいつも大変感謝してます。

特集



これまでのそうそうの杜 これからのそうそうの杜

ベテランスタッフ、新人スタッフに、それぞれの目から見たそうそうの杜を語っていただき、多角的な視点からそうそうの杜の歴史を創る新企画です。



＼勤続22年／

小澤奈津

profile

所属　杜のShokudo

好きな食べ物	燻製チーズ、イカの活造り
好きな曲	栄光の架橋/ゆず
行ってみたい場所	イタリア

ひとこと　いつも、利用者もスタッフも大切にできる法人でありたいと思っています。



＼勤続2.5年／

畑中聖奈

profile

所属　座

好きな食べ物	炊き込みご飯
好きな曲	Blessing
行ってみたい場所	フロリダのディズニーランド

ひとこと　…何事にも、ぼちぼちです。



＼勤続2年／

折登幹太

profile

所属　座座

好きな食べ物	カレーうどん
好きな曲	特になし
行ってみたい場所	北海道

ひとこと　健康に気をつけます

これまでのそうそうの杜



杜のShokudo　小澤 奈津

平成13年、大学4回生の時に、法人監事の大熊さんのご紹介で創奏のボランティア活動を始めました。以前から、グループホームや作業所でのアルバイトを通じて障害のある人と関わる仕事に興味を持っていました。

当時、創奏と座座の2つの事業所が存在していました。創奏は蒲生四丁目にあり、長屋の2階建ての建物でした。ここでは、消しゴムにシールを貼ったり箱に詰めたりする作業、植物のカラーの砂を計ったり、さおり織りやマンションの清掃などを行っていました。座座では和紙を作る作業が行われ、牛乳パックの薄いビニールをめくったり牛乳パックをちぎったり、紙をすいたりする作業を行っていました。

平成14年4月には、正式に創奏のスタッフとして働くことになりました。利用者は知的障害や身体障害など色々な障害の利用者が混在していましたが、みんなが一緒に仕事をする上で関係のないことでした。スタッフは正職が4人ほどおり、パートのスタッフも4人ほどでした。毎日たくさんの利用者が来て、活気に満ちた雰囲気で、座るスペースもないほどでした。その賑やかな雰囲気が、私にとっては大家族のようで、とても心地よいものでした。

木本さん、西村さん、山名さん、池田さん、江口さん、糸永さん、田村さん、河野さんなど、今でも利用しているメンバーと一緒に仕事をしていました。それぞれの役割があり、チーム全体で一体感を持って仕事を進めることができました。スタッフ、利用者関係なく大家族のような感じでした。

消しゴムの仕事では、時にシールの枚数が合わなかったり、箱が破損したり、消しゴムを誰かが持ち帰ったりして、取引先から叱責されることがありました。その度に、吉田久美子さんや藤田さんが遅くまで残って手伝ってくれました。

ただの消しゴムの仕事と思われがちですが、障害のある方が行う仕事だからこそ、適当に済ませることは許されません。むしろ、短期間できちんとした仕事を納品し、信頼を勝ち得て次々と仕事を獲得できるように努めなければなりませんでした。利用者が仕事をして工賃を得ることを忘れてはなりません。仕事が減るとスタッフの給料は減らなくても利用者の工賃が減るんだと荒川さんや吉見さんから何度も教えられました。今もその言葉を念頭に置いて日々の仕事に取り組んでいます。

渡辺貴志さんは、私が入職する前から創奏には入れず、近くの電柱までしか来られませんでした。彼の仕事はそこでの挨拶でした。毎日、電柱でスタッフと挨拶を交わし、家に帰る日々が続きました。渡辺さんは男性スタッフより女性スタッフの方が相性がよく、私が出会うようになって少しずつ創奏の電柱に近づけるようになりました。ある日、終礼が終わり利用者が少なくなった時、渡辺さんが初めて創奏に入ってきてくれました。それは、私にとってすごく嬉しい出来事でした。その後も、彼との関係を築くために二階で消しゴムの仕事をしたり、競馬の話をしたりしました。あるニュースがきっかけで渡辺さんが家から出られなくなった時もあり、その時は私が自宅に通いました。渡辺さんからは、利用者との関わり方を学びました。

創奏や座座しかなかった時代に比べるとたくさん事業所が増え賃貸ではないきれいな建物があったりして比べ物にはなりません。利用者、スタッフの数が増え時々しか顔を合わさない人もいます。これが、社会福祉法人そうそうの杜として大きくなったという事なのかと思います。利用者、スタッフ　それぞれの居場所がここにあると思ってもらえるよう社会福祉法人そうそうの杜を大切にしていきたいと思います。

これからのそうそうの杜



座　畑中 聖奈

社会福祉法人そうそうの杜に入職してから2年と6ヶ月が経ちました。私にとっては初めての就職先であり、わからないことだらけの中であっという間の日々でした。今回はそんな大変お世話になっているそうそうの杜のこれからを語るという緊張しかない企画ですが、私らしさを出して語りたいと思います。

皆さんはそうそうの杜の理念を知っていますか。

「そうそうの杜は、すべての人がその人らしく生き生きと暮らせる地域と社会を創っていきます」私は、この理念に書かれている「すべての人」とは、利用者の方々に加えて地域で生活している方々、そしてそうそうの杜のスタッフも含まれていると思っています。スタッフの笑顔がない事業所で利用者さんは笑顔になれるのか。まず、スタッフがその人らしく暮らしていないと誰かの「その人らしさ」を実現することはできるのでしょうか。その人らしさを見つけるために、私はまず自分自身が私らしく生きることをモットーにしています。

私も入職してすぐには、私らしさを出せていませんでした。頭の中は日々出会う利用者への対応がこれであっているのかどうかを考えてばかり。正しさを求めていただけですよね。ある意味それも私らしさだったのかもしれませんが、今のほうがもっと私らしいと思います。入職してすぐの頃より、今のほうが楽しいですから。そう、楽しいんです。私は今が楽しいし、ここが楽しいから関わる人にも同じ気持ちになってもらいたい。「私らしく」って生きていく上でとても重要だと感じる日々です。

さて、話は戻りそうそうの杜のこれからについて。そうそうの杜にはまだまだ関わりが薄い利用者やスタッフがいます。私は日頃座にいるのでなかなか他の事業所の方々とお会いする機会があまりありません。ないなら作ればいいだけの話なので反省しています。まだまだ「その人らしさ」を知らない人がたくさんいるんです。これは利用者だけでなくスタッフもです。まだまだ話したことがほとんどない人がいる。なんだか悲しい話のように感じるのは私だけでしょうか。

私個人の話のように書いてしまいましたが、全体の話だと思っています。特に経験の浅いスタッフはまだ見ぬ出会いがたくさんあるのではないでしょうか。あるいは、知っているけどあまりよく知らないなどなど。私は新人研修中のスタッフに出会うと「ダンスの人」と言われることが多いです。利用者の何名からは「ピカチュウ」と呼ばれることも…。まだまだ私のことを知らない人はたくさんいると気づき、私も彼らのことをまだよく知らないなと気づきます。

これからのそうそうの杜。私にとってのテーマは「会話」です。スタッフ間はもちろん、利用者との会話。そしてご家族の方々との会話。会話で相手を知ることでよりよい関係性を築くことができ、なによりよりよい支援に繋がると思います。普段からあまり人と会話はしないけど、支援情報の共有の会話だけはしています。というのも変な話のような。日頃の何気ない会話から思わぬ気づきがあるものです。

これからのそうそうの杜がよりよい事業所であり続けるために、会話が必要だと私は思います。



これからのそうそうの杜



座座　折登 幹太

未来のそうそうの杜を語るという難しいテーマですが、将来のことを考える良い機会なので、自分なりに考えていこうと思います。私は大学卒業後、この法人に入職したわけですが、周りを見ると驚いたことが２つありました。1つ目は、そうそうの杜の事業所の多くは、住宅街や商店街の一角にあったことです。まず、私の中のイメージとして福祉施設は、山奥など周辺に建物が少ない離れた場所にあるというイメージがあったからです。２つ目は商店街や事業所周辺を利用者が歩き回っていることでした。普通のことかと思いますが、なにか私は珍しいように感じたことを覚えています。この疑問は、会議での話や配属先で日々を過ごしていく中で段々と理解していきました。それは、そうそうの杜は、地域生活支援を実践してきたからだということです。そうそうの杜論文を見ると、城東区に特化して事業を行ったこと、「そうそうの杜はすべての人がその人らしく生き生きと暮らせる地域と社会を創っていきます」という理念に基づき、利用者やその保護者の想いに応じ、地域に根ざした社会福祉法人として作り上げてきた。だから地域に出て、住み続けることができるのだと思います。これが、そうそうの杜の強みの部分であり、今後もその想いを繋げたいと思います。

話は変わりますが、今年の４月に多くの若手が正規職員に採用されました。それまでは非正規という形で働いてくださっていて、正直なところ同じ年齢層の職員が増えて嬉しいです。外国人雇用をしているという点もこの法人の強みだと思います。近年、日本で生活する在留外国人の数は増加傾向にあるということを知り、これからも雇用が増えていく可能性があるのではと思います。外国人スタッフと関わっていく中で、とても学習意欲が高いなと感じています。日本語を話す、漢字やひらがなを使い分けるのは容易ではないです。また、文化や育った環境の違いから、思いつきにくい斬新なアイデアがでることがあるのではないかと考えます。私も負けないようにドンドン学んでいきたい。

このように法人の強みを活かし、積み重ねてきたことを若い世代が引き継ぐことができればこれからも法人が続いていくと考えました。



INTERVIEW 利用者へのインタビュー

02



今、頑張っていることは？

・てきぱき働いてる所です。
・来れるように仕事を頑張る。
・温野菜やドレッシング(ソース)等を作ってます。時々交代で調理の方も頑張ってやってます。

仕事の中で出来るようになりたいことは？

・レシピを見ずに色々作ってお客さんに出せる様になりたいです。
・ガラス拭き、トイレットペーパーの用意
・ホールの仕事。喫茶のメニューを全部作れる様になりたい。

得意料理はなんですか？

・薬膳トマトカレー
・自分で作ったソースの(鶏モモ、豚)料理は得意かもしれないです。

お休みの日は何をして過ごしていますか？

・友達と映画です。後祖母の家です。
・秘密
・買い物(食材、衣類、酒、掃除のゴミ袋やほうき)、友達とダーツバーとかも行って過ごしています。(ごくたまに家でゆっくり休みを過ごすときもあります。彼女の家)

仕事を続ける工夫やコツはありますか？

・メニューの貼り換え
・自分が出来るときはやりますって伝えて、調子が悪いなって思ったら無理って言うようにして、続けれていると思います。
・１日１日を頑張るしかない。

最後に一言！

・もっともっと賃金稼ぎたい！！
・ずっと思っていたことでそろそろ１週間くらい休みをとって彼女と一緒に旅行等に行きたいですね。

＊将来の夢は？

・生きづらさが今より少なくなっていたらいいな。



発酵薬膳&cafe Kawasemi
業務内容　調理補助
賃金実績　月額平均15万円

Kawasemiはそうそうの杜の中で一番賃金が高い事業所ですが、お店としても地域の皆様に愛され続けており、月の売上が100万円を超える人気店です。利用者にも大切なKawasemiを守る仕事が求められています。KawasemiのようなA型事業所はなかなかないため、そうそうの杜の中でも目標とするところですが、他の法人からも目標とされることが多い事業所でもあります。



VOICE
利用者の声
第1回



あんなに接客業を嫌っていたのに、自分でもこんな風に接客やお客さんとの交流ができるんだなぁと成長を感じることができてすごく良い体験になっています。

初めまして、杜のShokudoに所属している松下といいます。利用者の声ということでこの度は僭越ながらお芋専門店「おいもの国のアリス」について語らせていただきます。

まず「おいもの国のアリス」を作るにあたって、スタッフさんである駒澤さんと共に1から考えさせていただきました。事の始まりは去年の秋ごろ、お芋専門店を商店街に出店するということで店名を決めるところから始まりました。芋をいろんな言語に変えてローマ字でおしゃれっぽい名前にしてみたり、漢字を使った和風な名前だったり、またどんなコンセプトにするのかも考えました。最終的に決まったのは北橋さんが考えてくださった不思議の国のアリスをオマージュした「おいもの国のアリス」になりました。店名やコンセプトが決まると、次にどんな商品を出すのかまたどんな外観や内装にするのか、アリスなら…お芋専門店なら…といろんな意見を出し合い、アリスにちなんだデザインやメニュー案を考えるために不思議の国のアリスについて調べて物語や登場人物をなんとかおいもに絡ませることができないか絞り出して書いてみたり試作品を何回も作り意見を聞いたりしながらプレオープンに向けて必死だったと思います。何もかもが初めてのこと尽くしで大変でしたが周りの方々の意見はとても参考になりましたし自分とはまた違う視点からの意見などを聞くと納得することもあり改めて周りに聞くという大切さを実感しました。

お店の看板も一字一字すべて1から作成した手作りになっており、店名のロゴデザインは北橋さんに考えていただきそれをもとに電動のこぎりを使用し初めての挑戦で苦戦しながらもなんとか綺麗に作成できました。お手伝いをしてくださった方々にも感謝です。

外観ができてくると地域の方からも「いつできるの？」「お芋が好きだから楽しみ」など心待ちにしていただいている声をかけていただくことが増え、期待されているプレッシャーと未知のことに大きな不安と緊張を抱えながらいざ2023年12月1日まちにまったプレオープン日を迎えました。

正直接客業は苦手で一番したくないと避けていたことだったので、ましてや飲食店など自分にできるのかという不安がとても大きかったのですが暖かいお客さんが多く初日は探り探りで忙しなくなりながらも無事営業することができました。営業を重ねていく中で商品の改善点や、レシピの改良など難しいことや大変なことは少なくないですが、それ以上にかわいいお子さん達の常連さんができたり地域の方においしいとお褒めいただくこともあり嬉しく思いますし良い経験になっていると思います。あんなに接客業を嫌っていたのに、今となっては慣れてきて自分でもこんな風に接客やお客さんとの交流ができるんだなぁと成長を感じることができてすごく良い体験になっています。

最近では様々なお惣菜や新たなスイーツ、暑い季節に嬉しいひんやり系もご用意しているので気になる方はぜひ「おいもの国のアリス」へお立ち寄りください！



松下美咲
杜のShokudo

1999年4月3日生まれ
牡羊座　A型
好きな食べ物　ハンバーグ
嫌いな食べ物　トマト・納豆
好きな色　寒色系

そうそうの杜 エッセイ集



カンバさん

関 宏之

5月の声とともに、散歩道の枯れ木のようだった大きなケヤキのこずえが新緑に覆われました。季節がゴトンと移り私なりの新年度が始まりました。

「新しい衣服に新しい身体を通す」というのが若者たち、私は、窮屈になった古い背広に太い身体を詰め込んで、若者たちであふれる久しぶりの梅田に畏まって（かしこまって）出かけ、敬愛したカンバ（神林）神父の没後5年の追悼の会に出席しました。

戦争孤児の彼は、養護施設で母親代わりのブルガリア人のシスターの勧めでバチカンに学び、神父になって帰国し、その報告にシスターが院長を務める保育園を訪問した折りに、たまたま私がそこに居合わせたという偶然の巡り合わせで知己を得たものです。かれこれ50年前のことです。

カンバさんは、ほどなく自分が育った養護施設の施設長になり、私も福祉施設に勤務するようになりました。私の法人で新たに施設を建築することになり、その資金をさるかけ事からの収益を財源とする財団に申請することになりました。私は、寺銭を社会福祉のために供するのは本末転倒で、政府からの出資に頼るべきだと言ったのですが、彼が勤務している施設の初代の神父は、神戸に多かった戦争孤児をケアする費用が足らなくなり、ローマ法王庁に向けて「最近日本で洗礼を受ける人が多くなり、その際に用いるワインが極めて不足しており、至急送ってくれるように」と督促し、届いたワインをすべて売りさばいてケアを全うしたといいます。また、彼は、阪神淡路大震災の時、教会の敷地を売却して長田で被災外国人向けのFM放送の運営費を工面しました。非難ごうごうでした。「一生のうちて人や自分を背いたり裏切ったりすることはあるもんだ。そんな時は黙ってやり過ごすんだ！」と言いました。彼は決して聖ではなく、俗でもなく、私は、その言葉に救われたり迷わされたりしてきました。

晩年の彼の身体はガンの巣窟で、「ガンちゃん」との共存を語り、ことごとく自分流を貫き、しかし、組織の上層部からは疎んじられ（？）「出る杭は抜かれる」のごとく小さな場末の教会で修道僧のような風体で、訪れた私に飲むかと笑いながらウィスキーの壜を指したものです。

病院に見舞ったときは「よう」の一言。訣別の握手は固く冷たく、滑らかな口調はありませんでした。

彼はあれも・これも是とした人でした。だから信頼できたのです。



しめのさん　関 宏之

花たちの季節の真っただ中です。この時期になると、母の母の“しめのさん”が偲ばれます。転勤の多かった父母たちとは別に、多感な中学校と高校を祖父母のもとで過ごしました。「しめの」は、正月の三が日に生まれたので、しめ飾りからもらったおめでたい名前です。

わが田舎では、この時期には決まって花の郷の島根県の大根島から、おばあさんたちが背負子にボタンやシャクヤクや色とりどりの花を背負って行商に来られ、しめのさんはその人たちを縁側でお接待をするのが習わしでした。道路に面したわが家の庭先にも花や植木が満杯で、時々花が無くなることもありましたが、しめのさんは、「花泥棒はお咎めなし、花好きの仕業だけん、もらわれた花もどっかできれいに咲いとるじゃろう。」と苦にもしませんでした。

毎日の弁当を用意してくれて美味しかったというとそれが何日も続きました。彼女は、ニワトリ、山羊、ウサギなどを飼っていて、いくばくかの小銭を稼ぎ、その中から私への小遣いもくれました。しかし、出来のわるい孫は、時々小銭を黙ってもらって(くすねて)いました。分かっていたはずなのに、咎められたことはありませんでした。

以前にも書きましたが、祖父は厳格・一途な人で、しばしば私と口論になりました。ある寒い雪の夜、「出ていけ！　出ていく！」の応酬。黙って聞いていたしめのさんの「二人とも黙れ！」でたちまち鎮火したこともありました。

私が大学に入学した時、祖父の表書きの封書がきました。文字を習ったことのないしめのさんからの“ひらがな”の手紙が入っていました。「お前がいなくなって淋しくて淋しくてしかたがない、元気で励め」と方言交じりのたどたどしい文字で書かれていました。鉛筆をなめなめ書いてくれたのでしょう。泣きました。私が大学2年の頃には、帰ったよ！と言っても「どなた様ですか」というようになり、黙って坂の下の実家に行くようなったと母が嘆き、しばらくして他界しました。

さて、私が住む集合住宅には写真のような30坪ほどのガーデンがあり、女性たちがお花クラブを作ってにぎやかに植栽されていました。それぞれ個性のある方々で、長続きはしないだろうという大方の予想通り、身体がきついという表向きの理由で閉鎖が決まりました。丁度その頃、男たちが借りていた菜園が宅地に転用されることになり、それを聞き及んだ“お花クラブ”のみなさんから「丁度いい機会やんか。やってーな！」と執拗に口説かれ、結果私が庭係となり3年になりました。庭仕事をしていると、私を知らない新しい入居者から「業者さん！しっかりやってやー」とはっぱをかけられたりもします。

かの女性たちが思い思いに植えたので、あちこちから芽がでてきます。花の盛りが過ぎたからといって鉢ごと置いていく人もいます。隣の地主からも樹齢70年という「平戸つつじ」や黒松の盆栽も譲り受けました。

計画通りとびっくり区画が共存する賑やかな庭で、季節の花を咲かせ、今はしめのさんが好きだったシャクヤクが盛りで田舎の片隅にあったユキノシタも可憐な花をつけています。あなたの孫はあなたのDNAを引き継いだようです。

芭蕉に「草いろいろ　おのおの花の手柄かな」という句があります。土手の野辺の名の知れない草花や嫌われ者のキンケイギクにも、庭のおのおのの花にも、便乗して私にも“お手柄！”とエールを送ったりするのです。

メロンソーダの思い出

和田 数子



そうそうの杜で『あらかわてるお傑作童話集(1)』が出版されました。お話は荒川理事長がお書きになり、可愛い絵はAIの創作だとか。とても優しい眼差して生き物たちの世界を見つめているんだなぁと微笑ましく読ませていただきました。

もうずいぶん昔になりますが、子どもたちが幼いころ、たくさんの絵本や児童文学に出会いました。自宅で文庫活動のまねごとをして、近所の子どもたちと楽しい思い出をたくさん作りました。ある冬の日の午後のことでした。

「今日は『クローディアの秘密』を読みましょう」と言うと子どもたちは私の周りに集まって目を輝かせます。お話が始まるとみんな静かに聞き入って、あっという間に時間が過ぎていきました。

この辺でおやつにしましょうと、休憩を入れて各自で飲み物を決めました。部屋が暖かかったのでメロンソーダのお友だちが三人いました。ミルクや紅茶、ココアもあります。

喉を潤したらお話の続きを想像しておしゃべりが弾みます。少し賑やかになり、部屋が暑いと言ってカーディガンやトレーナーを脱いでしまう子がいました。そんなに暖房はしていません。おかしいなっと思っていたところへ息子が帰宅。「僕は牛乳にしようかな」と言いながら緑の綺麗な瓶を傾けて何か読んでいます。

「かずさん！　これメロンフィズって書いてあるよ」それを聞いて驚いたのは私。近所の酒屋さんで、喫茶店にあるような子どもが飲むメロンソーダのシロップをくださいと言ったのに、緑の小瓶の中身はアルコールだったのです。

被害者は三名、すぐに水を飲んでもらい、ご両親に連絡がつく電話番号を尋ねました。「おばちゃん大丈夫。私お父さんのビール飲んだことあるから」と言う子がいたり、「お母さんは耳が聞こえないから電話には出られないし、ちょっと暑くなっただけだから平気」と私を庇ってくれたり、「炭酸水で薄めているから心配するほどじゃない」と慰めてくれたり、みんな私が怒られないように気遣ってくれました。

「本当にごめんなさい。私の不注意です」と謝る私を見て、この前読んだ『赤毛のアン』の第16章を思い出したのです。

アンはいちご水と葡萄酒を間違えてダイアナに勧めてしまいます。三杯も飲んで気分が悪くなったダイアナは酔っ払って帰宅します。あられもない娘の姿にバーリー夫人はカンカンに怒ってしまった。娘をアンから遠ざけるため二人は絶交させられてしまうのよね。とにかくメロンフィズを飲ませてしまったことを報告して謝って、許してもらわないとこのお話の続きを読んであげられなくなると言うと、みんなにその場面が蘇り「そうだったわね」と笑いながら家に電話を掛けてくれたのです。

電話で伝えられないお母さんには手紙を書いて、すぐ届けに行きました。この時、お友だちから手話を教えてもらい、片言ですが手と表情で謝罪ができました。どなたも私の失態を笑って許してくださったのですが、この時は三人が無事だったことが何よりでした。



闕宏之

第１回『次郎物語』

福祉に携わる者なら

〝世の中には、沢山の幸福に恵まれながら、
たった一つの不幸のために、自分を非常に不幸な人間だと思っている人もあるし、
それかとおもうと、不幸だらけの人間でありながら、
自分で何かの幸福を見つけ出して、勇ましく戦っていく人もある。〟
『次郎物語』第二部より

想創奏59号の新企画として「福祉これだけは見てほしい」、副題に(業界に勧めるなら必見といえる書籍、映画などを紹介する)について書くという課題が与えられました。私は、荒川理事長の意向で、そうそうの杜のスタッフ研修のダイジェスト版を法人のユーチューブで「福祉の本質」という大げさな講座名を頂いて公開していますが、もとより「現場の大将」を自認する者で、体系的に社会福祉を学んだこともなく、四苦八苦の解説を北橋さんの卓越した編集の助けを得て公開中です。そちらを参照して頂ければと思いますが、もっと気楽に「福祉」を語れということでしょう。確たるものを持たないことがバレてしまう、と思いつつ、折にふれて訪ねる２冊の本と２編の映画を紹介させて頂きます。

「定本次郎物語」下村湖人著、初版発行1958、池田書店

この本は何度読み返したかわかりません。「次郎物語」は、1964（昭39）年からテレビドラマとしてＮＨＫで放映され、里子に出された次郎少年が数々の出来事に遭遇しながら成長していく姿が感動を呼び「少年ドラマ・児童文学」として位置付けられてしまいました。この放送のテーマソング「一人ぼっちの次郎が泣いた…」とペギー葉山さんが歌っていたのを記憶しています。何度も映画化されたようですが、1987（昭62）年公開の映画はDVDで観ました。監督が森川時久、脚本が井手雅人、父親役に加藤剛、母親が高橋恵子、母方の祖父が高松英郎、祖母が山岡久乃、乳母が泉ピン子、母方の若い衆を永島敏行など、往年の俳優が出演し、主題歌はモルダウの曲にのせてさだまさしが歌っています。母の看護のために母方で過ごすのですが、そこは湖人の生家がある水郷や農村風景や古い行事があり、健気に瀕死の母を看病する姿は涙を誘いますが、次郎の少年時代の一コマに焦点をあてたもので、「次郎物語」の序章に過ぎません。

次郎物語は。1936（昭11）年に連載が始まり、第2部は42年、第3部は44年、第4部は戦後の49年、第5部は53～54年に書かれた全5巻の壮大な長編小説なのです。

次郎は幼年期を過ぎてもこだわりの強い多感な少年期を迎えます。折に触れて父や母方の実家、中学校の教師や兄とその友人たちとの交友が語られますが、その根底には、著者の湖人が佐賀・鍋島藩の人で、「葉隠」から「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」という一文、すなわち、不断に死を覚悟することによって自らの生きる理由を探ること、また敬愛する中学校の朝倉先生からは「白鳥葦に入る」すなわち「白鳥が白い葦の花陰に身を寄せるように穏やかで静謐（せいひつ）であること」というと人間としての品格を学びます。時に歎異抄や禅僧の言葉、古代ギリシャの寓話や論語や聖書なども引用され、悩める次郎に然るべき方向を示唆します。

第４部では軍国主義に傾斜していく世相や人々の人間模様が語られ、第5部では、戦争批判により旧制中学を退職して私塾を興した恩師とこれまた舌禍事件で中学を退学した次郎が、激動の中を私塾で助手として社会教育や地域づくりに従事する様子が綴られます。続編が構想され、敗戦や新しくなった日本での次郎たちについて書き記すことになっていたそうですが、作者の死により叶いませんでした。

教養小説といわれる「チボー家の人々（ロジェ・マルタン・デュ・ガール著）」や「三太郎の日記（阿部次郎著）」と同列の書で、読者に「淡々と目標に接近するように」「掲げた心根を途中で投げ出したり、摩耗させたりしないように」と語りかけます。

その昔、夏の昼下がりに湖人の千代田町の生家を訪れ、二階の畳の間で、次郎を思いながら大の字になってうたた寝をしたことがありました。



『次郎物語』　下村湖人

生後すぐ里子に出されたことが次郎を変えた。孤独に苦しみ、愛に飢えた青年が自力で切り拓いていく人生を、自伝風に描く大河小説。著者である下村湖人は、佐賀中学校教師や鹿島中学校校長等を歴任後、講演や文筆活動で社会教育に尽力した。

そうそうの杜 自慢のグルメ 1

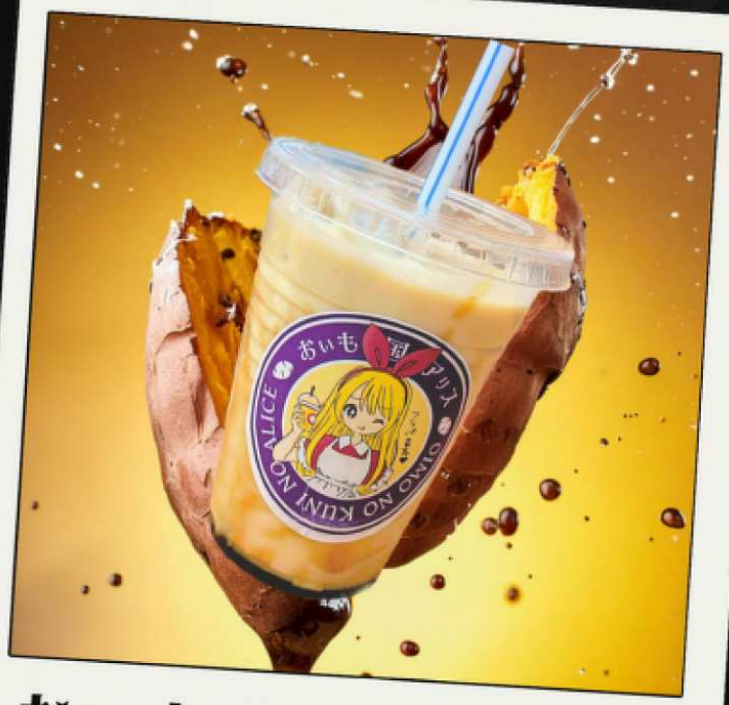


菊芋のふりかけ

今回はまず、おいもの国のアリスで販売している菊芋のふりかけを紹介していきたいと思います。まず、菊芋ってなに？と思われる方も多いと思いますし私も知りませんでしたが、菊芋は北アメリカが原産のキク科ヒマワリ属の多年生植物で、第二次世界大戦中には食用として持ち込まれるようになり、定着したとされています。なによりも！！菊芋には「イヌリン」という水溶性の食物繊維が含まれています。イヌリンは、血糖値の上昇をおだやかにすると言われている成分なので、とっても体に良いのです。菊芋は荒川理事長の畑から愛情たっぷり育ったものや、そうそうの杜の畑で取れたものを使用しています。

そんな菊芋をスライスして揚げて、ひじきとカツオと白ゴマであえています。こだわりはカツオを一度熱してパリパリにすることです。おにぎりにしても良し、白ご飯にかけても良し、サラダに振りかけるでも良し！なんでも合います。普通のふりかけより血糖値も下がるのでまさにスーパーフードです！！

菊芋が取れる時期しか作れないものなのでぜひまた買ってみてください！



おいものフラペチーノ

次はおいものフラペチーノです。こちらは冬に販売していたおいものホットドリンクをベースに改良したものになります。このお芋ペーストを初めて作ったときは皆さんから、あまい！まずい！とたくさん言われましたが、今のお芋ペーストは何回もあきらめず作って出来たものになります。こだわりとしてはお芋の種類や個体によってどうしても味が変わってしまうのでその都度味見をして砂糖などの量を調節しています。外に垂らしている芋蜜は醤油とみりん、さとうを配合して煮詰めたものです。さつまいもをこす作業はとても根気がいるのでみんなで交代しながらしていますが手や腕がパンパンになります。苦労してできたものなのですが、女性にはとても人気でよく買って下さる方も増えたのでうれしいです。おいもなので一つ飲むだけでお腹がいっぱいになります。逆にダイエットになるかも？ぜひ飲みに来てください。

駒澤　美羽



歌うように描くように
『自分』を表現する

sousouartist

そうそうの杜アーティスト

第1回 高木 庸子さん

文・駒澤 美羽

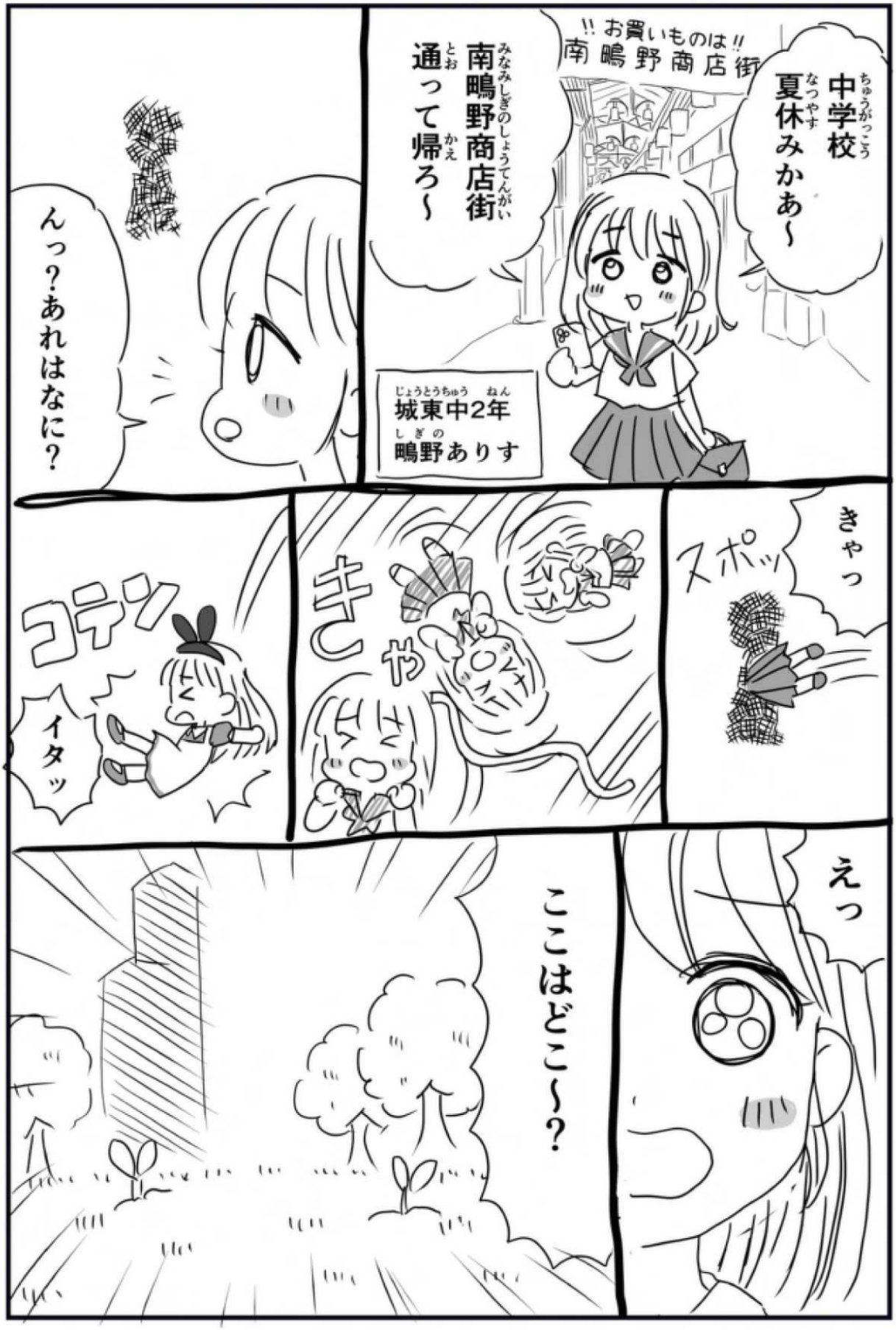
今回紹介するアーティストは高木庸子さんです。彼女の見える世界は暗いかもしれないがそうとは思えないほど彩り豊かな作品が生まれてきます。過去の思い出などを頭の中で思い出し、一つの土の塊から手で形を作り出します。色も本人が決めてその通りに色付けをしています。思い出せない部分はいま福の家の皆にあれってどうやった？？どんな形やった？といって聞いたり、また高木さんが作っている途中の作品をみんなで当ててみたり、もし正解しなかったらどこがそう見えないのかなど細かく聞き、修正します。いつも苦戦しているのは中を空洞にしなければいけないことです。工夫して新聞紙を中に入れその上から土をくっつけたりしながら作りますがそれでも大きな作品も多く、よく作品が爆発したり、ひびが入ったり、折れたりすることも多いです。それでも何度でも作り直し、そうやって作られた作品はどこか懐かしいようなやわらかいような雰囲気を漂わせます。動物や人のモチーフが多くすべての作品に物語が込められ意味がしっかりとあります。一つ一つじっくりと見て手に触ってほしい作品です。



おいもの国のアリス

Alice in Potatoland

THE COMIC
第1話 はじまり
漫画・北橋 樟




おいもの国に迷いこんだの？
え～！ウサギが立って話してる！
ぼくはうさぽよ！このおいもの国の案内人なんだ
へー そうなの
そーいえばわたしの服もめっちゃ可愛くなってる！
スマホとかは？
おいもの国案内したげるよ～
ま、いっか！
きゃ～
あっかわいいお花さいてるよ～
あ、ちょうちょ～
えっおいもの国の案内は？
ま、いっか！
きゃ～
あーおなかすいたなー


みんなごはん
どうしてるの
それはね
あちこちに
おいもが
はえてるでしょ
掘ってかじるんだよ
えっお料理しないの
うさぎの手じゃ
できないんだよ
そうだっ、わたしが
おいものお料理したら
いいんじゃない？
そーと決まれば
お店つくろ！
木とトンカチ
貸してねっ
トントン
カンカン
できた～！
おいもの国のアリス
Alice in Potatoland
おどろいた！
きみは器用だねぇ
こー見えて陶芸とか
やってんのよ
自画像めっちゃ
かわいい
かわいくないと
気分あがん
ないじゃん
すっごいおいしい
おいもつくるから
お友達よんで～！
は～い！



アリスピンチ！？おいもの国のお店はどうなってしまうのでしょう…
そしてアリスが作ったお店や陶芸ができる場所は…なんと！
南鴫野商店街に本当にあるのです！　これから鴫野とおいもの国を
行ったりきたりするアリスのおいものお店物語…ぜひ見てくださいね！

★おいもの国のアリス　鴫野東3-2-15
★本と窯(陶芸)　鴫野東3-14-18

まんがの作者…北橋　すきなもの…ちいかわ/こども/お花を育てること/カフェめぐり



エルチャレンジ工賃向上プロジェクトのコンペで『おいもの国の電卓』が選ばれました！

SOUSOUNEWS

そうそうの杜のお知らせ

2024.6

2024年度のエルチャレンジ工賃向上プロジェクトのコンペにて、そうそうの杜から出品した『おいもの国の電卓』が見事選ばれました！無事制作と納品を終え、労務士さんなど、たくさんの方々のところに電卓が届く予定です。今後もそうそうの杜は多くのコンペに出品し、そうそうの杜が持つ企画力・デザイン力を活かしながら、利用者の工賃向上に努めてまいります。







城東区役所でお弁当・スイーツの出張販売

毎週火曜と金曜のお昼には、城東区役所の1階ロビーで杜のShokudoのお弁当、Lianの杜、おいもの国のアリスのスイーツを出張販売しています。杜のShokudoのお弁当は、Instagramからご予約もできますのでぜひご利用くださいね！

プライフTV始動！

利用者中心のYouTube『プライフスマイルTV』が始まります！そうそうの杜のサブチャンネルからご視聴ください！

★そうそうの杜ひそひそ話

南鳴野商店街に出店している『杜のざっかやさん』（半額書店）では、掘り出し物の新品本が半額で買えるという噂…！隣りにある『だがしやさん』にも掘り出し物がいっぱい！『本と釜』でもいろんな掘り出し物を出していますので確かめてみてください！『本と釜』では陶芸教室も大人気です！



「なりたい」を、応援します。



本の出版

自分だけの本をつくる、作家さんになる夢を叶えませんか？そうそうの杜出版部では、荒川理事長の絵本、利用者さんのエッセイをはじめ、続々といろんな方の作品を発行予定です。つくりたい思い、伝えたいことがある方は、いつでもご相談ください。文字入力ができなくても、音声録音から原稿を作成することも可能で、自分で書いた絵や作品、写真の画集も出版できます。



配信者

自分だけの思いを世の中に伝えられる、配信者になりませんか？

そうそうの杜では、多田さんの野球実況などの活動をはじめ、利用者さんが直接自分の声を伝えられる環境を整えたいと願っています。近年は障害ある方の配信者も増えてきています。伝えたい思い、配信してみたい趣味がある方は、世界でひとつの自分だけの動画を配信してみませんか？



VTuber

配信者になりたい思いはあっても、人前に出る勇気はなかなかないという方、VTuberになってみませんか？自分の理想のアバターを作り、思い通りの配信ができます。趣味の話、ペットの話、自分の居場所を自分で気ままに作っていきましょう。ゲーム操作が難しくても身体障害用ゲーム機器などもあり、マインクラフトなど自分の趣味や楽しみを充分に活かした配信をすることができます。

「なりたい」思いをいつでもご相談ください。

そうそうの杜メディア/出版部
担当:北橋

YouTube　Amazon出版

社会福祉法人そうそうの杜
メディアリスト

YouTube



事業所紹介
各種ニュース

そうそうの杜の各事業所や最新のニュースを動画でお届けします



關宏之
『福祉の本質』

關先生を講師に招き福祉の本質に迫る福祉関係者必見の動画講座です



多田泰秀の
プロ野球速報

独自の視点からプロ野球について熱く語り尽くします



Prife
SmileTV

利用者が作る YouTube！
ここだけの企画が目白押し！

Instagram



発酵薬膳&café Kawasemi



杜の Shokudo



Lian の杜



おいもの国のアリス



杜のこうさてん



杜のごはん

coming soon…

ご援助いただきありがとうございます

社会福祉法人そうそうの杜では、当法人の理念や事業、目的に賛同される方、事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。書面にて大変失礼かとは存じますがお力添えくださいますようお願い申し上げます。ご支援いただいた寄付金につきましては、大切に使わせていただきます。また、寄付をしていただいた皆様には機関紙「想創奏」をお送りします。

寄付の方法は、以下の郵便振替口座にて御振込いただきますようにお願いします。今後ともご支援、ご協力いただきますように、法人として努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

一般寄付（2024年1月11日～2024年5月20日にご支援頂いた方）
飯田　靖子、伊藤　光子、稲岡　了三、大屋敷　百合子、砒塚　幸弘、
金子　公子、倉川　俊介、武智　保博、谷本　利雄、中島　伸治、
中村　忠行、野間　満典、橋本　千鶴子、三宅　克英、村津　和雄、
森　貴宏、横川　よし子、吉川　愛子
株式会社ファーストステップ

（敬称略）

その他、地域の方々にアルミ缶・牛乳パック・おもちゃ、古本、中古家具等、様々な物品のご寄付を頂いておりますことを、心より感謝申しあげます。
いつも本当にありがとうございます!!

振込先
ゆうちょ銀行
口座番号：00940－5－185986
振込先（加入名）：社会福祉法人　そうそうの杜

社会福祉法人そうそうの杜



法人本部

城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6965-7171
Fax/06-6167-2622



地域生活支援センターあ・うん

相談支援事業
城東区鴫野東3-2-28
Tel/06-6969-8123
Fax/06-6167-2622



とことこっと

居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護
城東区中央1-6-29 2F
Tel/06-6167-7530
Fax/06-6955-8826



Prife

就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援
城東区東中浜2-2-19
Tel/06-6923-8959



座座

就労継続支援B型
城東区鴫野東3-2-12
Tel/06-4258-6013



つむぎ館

就労継続支援B型
城東区鴫野西5-13-6
Tel/06-6180-6820



Kawasemi

就労継続支援A型
城東区中央1-6-29
Tel/06-6935-1111
Fax/06-6935-1911



杜のShokudo

就労継続支援Ｂ型
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6955-8080
Fax/06-6167-2622



添

短期入所
城東区鴫野東3-2-5
Tel/06-6167-5395



創奏

生活介護
城東区鴫野東3-3-1
Tel/06-6923-8929



庵

生活介護
城東区鴫野東2-26-18
びんの郷 1F
Tel/06-6958-4745



げんげん

生活介護
城東区鴫野東3-18-5
Tel/06-6180-9670



いま福の家

生活介護・共生型通所介護・共生型介護予防型通所サービス
城東区今福南4-15-33
Tel/06-6180-7399



伝

児童発達支援・放課後等デイサービス
城東区鴫野東2-26-18 びんの郷 2F
Tel/06-6958-4746



心

自立訓練
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6965-7171
Fax/06-6167-2622



北部地域センター（大阪市障がい者就業・生活支援センター）

城東区鴫野東3-2-28
Tel/06-6955-9921
Fax/06-6167-2622



杜のこうさてん

大阪市つどいの広場事業
城東区鴫野東3-3-3
Tel・Fax/ 06-6961-5505

鴫野商店街内 サテライト



Lianの杜



おいもの国のアリス



杜のざっかやさん



本と釜



だがしやさん

coming soon



coming soon

